

インターネットを賢く使おう ■メーリングリスト〈連載5/6〉専修大学WEBマスター 八箴 克彦

今回は「メーリングリスト」を取り上げてみよう。

一口で言えば、全参加者(会員ともいう)に同じ文面が同時に送られ(同報)、その話題に興味を持った人ならだれでも意見を述べたり、反論したり、関連する情報を提案したりできる…。まあ「電子井戸端会議」とでも言えるようなものと理解しておきましょう。

実際にメーリングリストに参加するには、「検索サイト」でメーリングリストを探し、自分の興味のあるテーマを扱っているものを探し出して登録することから始まります。投稿も通常匿名で行われるのも、特徴のひとつだね。うまく利用するにはまず、そのリストの特徴や入・退会の方法、会員規則をよく理解しておくことが肝心というわけ。

また、メーリングリストは参加会員全員に配信されるので、記事の内容やタイトルには注意したいものです。言うまでもなく個人攻撃や中傷はいけません。送信されてくるメールが自分個人宛になっているものだから、自分だけに送られてくるものと勘違いしている人がいるのも困ったもの。

自分が出したメールも、当然のことですが、登録しているたくさんのメール仲間全員に送られていることを忘れてはいけません。投稿する内容の選択でも自分の感じたこと、知らせたいことを自然に書き込めばよいのです。でも「話し言葉」等ならば身振りや声色などの助けで、比較的豊かな表現も出来るけれど、メール等の「書き言葉」はストレートに表現されがちなので、場合によっては思わぬ誤解を招くことがあるから、その表現には十分注意をしたいものです(ネチケットを思い出してください！)。

自分の好きなメーリングリストをみつけて自分の世界を広げることはいいのですが、参加している相手の顔が見えないこと、ウイルス等の被害にも遭いやすいことなど、ネット特有の落とし穴があることを十分に理解して利用するようにしてくださいね。

[1月15日/ニュース専修4面]

学部発信－ネットワーク情報学部－



指導する石鎚教授

ネットワーク情報学部は、経営学部情報管理学科より01年4月に改組転換して誕生した新しい学部です。現在1年次生、2年次生のみです。

本学部では、学生の勉学の志向や卒業後の進路に沿ったカリキュラムを提供するために「コンテンツデザイン(CD)コース」「ネットワークシステム(NS)コース」「情報ストラテジー(IS)コース」の3コース制を採用しています。

学生は、1年次の後期にコースを選択し、2年次からコース別のカリキュラムを履修します。

1年次の専門科目(14科目)は、すべて必修科目で、1科目を除いて2単位科目です。本学部で学ぶ専門知識の特徴として、基礎から応用へと積み上げていく性格が強いことから、履修する学年が指定された必修の専門科目が比較的多くなっています。また、1年次から2年次への進級に際して、「専門科目を20単位以上習得」という条件を設けています。必修科目の重視と早い段階からの進級条件の設定は、「個人の興味に応じた多様な学習を行う前に基礎を十分固めておく必要がある」という考え方に基づくものです。

こうしたことから、演習科目以外でも、ハードなレポートを科す学科科目が多いという特徴もあります。しかし、同時に、学生の勉強がオーバーワークになり、理解が浅薄になることも危惧されるため、「年間履修上限単位数」を設け、各年次における単位数のバランスをとっています。

いくつかの特徴的な科目を紹介します。

☆「情報リテラシー演習」(1年次配当)では、情報の収集・分析・発表を体験学習し、今後の授業や研究に必要な基本的知識やスキルを習得します。個人の能力の向上だけでなく、グループで課題に取り組み、成果を発表するコラボレーションも重視しています。

☆「ネットワーク情報概論」(1年次配当)では、ビジネスや技術の最前線で活躍しているゲストスピーカーを招き、ネットワークと情報技術が社会でどのように活用されているのかを具体的事例を交えながら解説します。また「企業研修」(2・3年次配当)では、学生を一定期間企業に派遣し、企画・設計・製造・販売といった企業組織のトータルな機能・業務の把握と、経営のダイナミズムを体験します(事前研修と事後報告会も併設)。

☆「総合演習」(2年次配当)は、8単位科目で、コースごとに「コンテンツデザイン総合演習」「ネットワークシステム総合演習」「情報ストラテジー総合演習」が設けられています。各種コンテンツの作成・ソフトウェア開発・問題解決スキル習得とコースにより内容が異なりますが、いずれも実習形式中心で、講義で学んだ知識を深めていきます。

☆「プロジェクト1」(3年次配当)は、3年次の中心的な科目で、学生が主体となって活動します。問題発見からテーマ設定・調査分析・実践・評価・報告にいたる過程を自らスケジュールし、諸学術の理論やテクニックを活用して共同作業により成果物(調査・研究・作品制作)を作り上げて公開します。

さらに良いカリキュラムを今後とも目指していきたいと考えています。(石鎚英也)

[1月15日/ニュース専修4面]